

記念スタンプ



旧海軍司令部壕参観料

	大人	小人
個人	440円	220円
団体 (20人以上)	390円	190円

※大人(高校生以上)※小人(小学生~中学生)

開館時間(年中無休)

8:30~17:30(7月~9月/18時閉館)  
8:30~17:00(10月~6月/17時30分閉館)

交通

旭橋(那覇バスターミナル前)より  
55・88・98番系統で宇栄原団地前  
下車徒歩5分。那覇空港よりタク  
シーで約15分。

海軍壕公園指定管理者

一般財団法人  
沖縄観光コンベンションビューロー

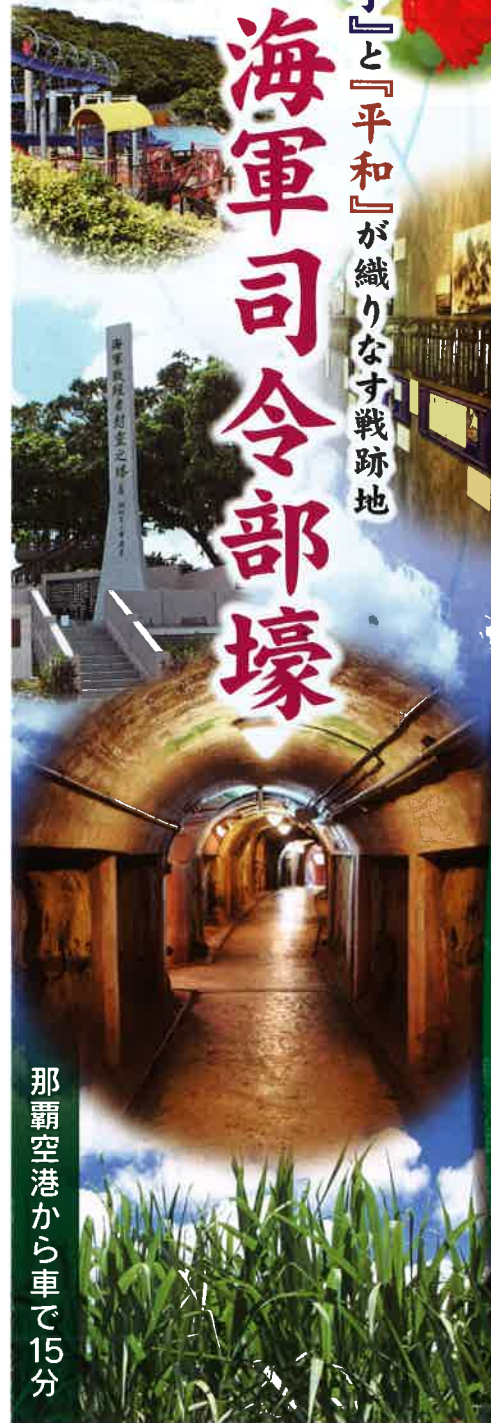
お問い合わせ  
旧海軍司令部壕事業所

〒901-0241 沖縄県豊見城市宇栄原236番地  
TEL(098)850-4055  
FAX(098)850-9342  
URL: <http://kaigunbou.ocvb.or.jp>



# 旧海軍司令部壕

『戦争』と『平和』が織りなす戦跡地



那覇空港から車で15分

JAPANESE NAVY UNDERGROUND HEADQUARTERS

海軍壕公園は那覇市の南西、豊見城の小高い丘にあり、東シナ海、那覇市街、首里城が展望できます。琉球王朝時代には、中国や薩摩からの船の入港を知らせる「火番森(ヒバンムイ)※」がここに置かれました。

また、第二次世界大戦末期には日本海軍の司令部壕が置かれ、激しい戦場となりました。現在では、沖縄から世界に平和を発信する戦跡公園として整備され、交流や憩いの場として広く親しまれています。

※琉球王国時代、船の来航を知らせるために燃やっていた



## エントランスゾーン

本公園のエントランスにふさわしいゲートプロムナードと、メイン、サブの2つの駐車場があります。



## 緑の森ゾーン

傾斜の続く緑豊かな広場です。休憩施設があり、北遊び広場にはブランコ等の遊具が設置されています。



## 戦跡ゾーン

詳しくは旧海軍司令部壕面をご覧ください



## プレイゾーン

子供たちの遊びや憩いの場として、高低差のある地形を活かしたコンビネーション遊具など、楽しい施設があります。



## お祭り広場ゾーン

地域の祭りなどの様々なイベントや軽スポーツなどの地域活動の場となる"お祭り広場"。広場は斜面緑地の森の小径など、散策を楽しむことができます。



お祭り広場  
サブ駐車場  
OPEN 8:00  
CLOSE 21:00

旧海軍司令部壕

JAPANESE NAVY UNDERGROUND HEADQUARTERS

昭和19年(1944年)日本海軍設営隊(山根部隊)によって掘られた司令部壕で、当時は450mあったと言われています。カマボコ型に掘り抜いた横穴をコンクリートと杭木で固め、米軍の艦砲射撃に耐え、持久戦を続けるための地下陣地で、4000人余の兵士が収容されていました。戦後しばらく放置されていたが、数回に渡る遺骨収集の後、昭和45年(1970年)3月、観光開発事業団によって司令官室を中心に300mが復元されました。



① 壕入口階段

105段、30mほどの階段を降りると、通路が縦横に張りめぐらされた壕内へと続きます。



② 作戦室

壁はカマボコ型に掘られており、防護のため漆喰で塗り固められている。



③ 幕僚室

司令官室・作戦室に近いこの部屋は幕僚が手榴弾で最期を遂げた時の破片のあとが当時のままくつきりと残っています。



④ 下士官兵員室

玉砕の近い6月ごろ、この部屋は立錐の余地もない程で、兵士たちは立ったままで睡眠や休息を取ったといわれています。



⑤ 司令官室

司令官室の壁面には『大君の御はたのもとに死してこそ人と生まれし甲斐ぞありけり』という大田司令官の辞世の句が残されています。



壕内の通路は迷路のようになっている

壕内見取り図及び順路

※車イス等でも参観できます。(要予約:出口から入場となります) ●は発電室



● 現在公開されている部分(300m)  
■ 現在公開されていない部分(150m)



■ 慰霊之塔  
昭和33年、沖縄海友会ならびに海軍戦没者慰霊之塔建立発起人会によって建立。慰霊之塔前広場からは、首里城や那覇市街地が一望できます。

資料館

資料室内には、銃器や軍服など壕内より発掘された遺品や家族へ宛てた手紙など、旧日本海軍についての資料を展示しています。



壕内はすべて「くわ」や「つるはし」を使って掘られました。上部は、旧海軍司令部壕内から出た遺品、やかんや水筒、薬ビンなどがあります。



家族へ宛てた手紙等



写真資料のほか、沖縄戦の経過が記されています



大田實 東亜協会 講習會筆記



日本軍の遺品と手製の槍



大田實海軍少将

旧海軍司令部の司令官であった大田實少将はじめ幹部6名は、米軍の猛攻に昭和20年6月13日深夜、壕内で最期を遂げました。大田少将が海軍次官に宛てた、沖縄県民の献身的作戦協力について訴えた電報が残っています。

062016番電  
発 沖縄根拠地隊司令官  
宛 海軍次官

左ノ電 次官ニ御通報方取計ヲ得度  
沖縄県民ノ実情ニ関シテハ県知事ヨリ報告セラルベキニ  
県ニハ既ニ通信力ナク 三二軍司令部又通信ノ余力ナシ  
認メラルルニ付 本職県知事ノ依頼ヲ受ケケルニ非ザレドモ  
現状ヲ看過スルニ忍ビズ 之ニ代ツテ緊急御通知申上グ  
..... 中略 .....

勤勞奉仕物資節約ヲ強要セラレツツ(一部ハ兎角ノ悪評  
ナキニシモアラザルモ)只管日本人トシテノ御奉公ノ護ヲ胸ニ  
抱キツツ 遂ニ 与ヘ コナクシテ 本戦關ノ末期ト  
沖縄島ハ実情形

一木一草焦土ト化セン 糧食六月一杯ヲ支フルノナリ謂  
フ 沖縄県民ス戦ヘリ

県民ニ対シ後世特別ノ御高配ヲ賜ランコトヲ

註: ■は判読できず、意味不詳ですが原文のままとしました。

沖縄戦による戦没者数

全戦没者数	200,656名
● 日本側 (188,136名)	
■ 他都道府県出身(軍人軍属)	65,908名
■ 沖縄県出身(戦闘参加者)	56,861名
■ 沖縄県出身(軍人軍属)	28,228名
■ 一般沖縄県民(推計)	37,139名
■ 米軍側 (12,520名)	

沖縄県平和推進班資料より

沖縄戦主要事項年表 (昭和16~20年)

昭和16	昭和17	昭和18	昭和19	昭和20
12/8	4/10	7/18	8/8	1/31
真珠湾攻撃	太平洋戦争勃発	海軍沖縄方面根拠地隊編成司令官 船越英吾中将	東条内閣総辞職	東京大空襲
		小磯米内内閣成立	山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	米機動部隊、沖縄本島の爆撃を開始
		海軍艦隊司令部(山根)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	米軍、首里那覇を砲撃
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	戦艦大和以下、沖縄教団の海上部隊が沖縄で爆撃
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	米軍、首里を占領
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	沖繩海軍主力部隊(司令官大田實少将)小磯地区で玉砕
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	牛島司令官、長参謀長厚文仁で自決
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	久米島で日本軍による住民虐殺事件
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	米軍、沖縄戦を終了宣言
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	対日ボツダム宣言発表
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	米軍、広島に原爆投下
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	米軍、長崎に原爆投下
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	日本政府ボツダム宣言受諾
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	天皇終戦詔書(ラジオから放送)
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	日本政府米艦シブエリ号上で降伏文書に調印
		山根部隊陸基航空隊(山根部隊陸基航空隊)の建設始まる	第32軍司令部(山根)の建設始まる	琉球列島守備隊主納の米第10軍司令部で降伏文書に調印